

## 「竜に翼を得たる如し」 の精神で邁進していく



南阿蘇村長 き ら 吉良 せい いち 清一

新年明けましておめでとうございます。

村民の皆さまにおかれましては、令和6年の新春を清々しいお気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から村政運営に対しまして格段のご配慮を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染症対策に留意しながらも従来通りのイベントなどが再開し、かつての賑わいを取り戻しつつあります。しかし一方で、国際紛争や物価高騰など不安定な社会情勢が続いているところであります。

さて、本村におきましても7月15日の南阿蘇鉄道の全線運転再開や熊本地震震災ミュージアムのオープンなど、熊本地震からの復興が大きく前進した年でもありました。特に南阿蘇鉄道は、村民の皆さんが各駅や沿線において横断幕や旗を多くの人たちに振っていただくなどのご協力もあり、祝福に包まれた運転再開となりました。このような再開を迎えられたのも尽力された関係者のお力添えと、長い間再開を望む地域住民の熱意が実を結んだものであり、深く感謝申し上げます。今後多くの皆さんから愛され親しまれるような鉄道を目指し努力してまいります。

その他にも、5月には立野ダム本体のコンクリート打設が完了しました。7月の大雨の際は、ダムの持つ洪水調節機能が発揮され、白川の氾濫を防いだことは下流域に住んでいる皆さんに安心を与えるものだったと考えています。

また、本村はSDGs未来都市に選定されており、昨年1月にあか牛の生産と草原維持を目的とした「南阿蘇村草原再生・あか牛復興プロジェクト」、

3月には湯の谷地熱発電による地熱発電が開始しました。この発電により、年間に一般家庭約3,200世帯に相当する電力を発電することから、温室効果ガス削減にも大きく貢献できるものだと考えております。これらの政策は、「3つのK」いわゆる「環境」「活力」「暮らし」の政策をより推進していくものであり、これからもSDGs未来都市として積極的に取り組んでいきたいと思っております。

さらに、一昨年には台湾の東港鎮と国際交流促進覚書を締結しており、今年度よりTSMCが本格稼働することから、連動して更なる国際交流の促進などにも取り組んでいく所存です。本年も「誰もが住みたい・住み続けたい南阿蘇村」の実現に向け、村民が心から誇りに思う村、移住希望を多くいただける村の実現に向けて「竜に翼を得たる如し」の精神で邁進してまいります。村民の皆さまのなご一層のお力添えをよろしくお願ひします。

最後に新春の門出にあたり、皆さまにとりまして健やかで幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

